

優秀賞（神奈川県教育長賞）

人と人で繋がる伝統

神奈川県立相模原中等教育学校 1年 阿部 慎之助



てんてん てんすぐすってん……

お祭りや行事を盛り上げるお囃子。笛や締太鼓と言われる小さめの和太鼓などを使って演奏する日本の伝統芸能の一つだ。みなさんも一度は見た事があるのではないだろうか。全国各地に古くから存在し、地域色豊かな事も特徴の一つだ。今、こうした日本の伝統が失われ始めている。

僕は今年から、地域のお囃子保存会に所属して、お囃子の稽古を始めた。

元々は小学一年の頃から、長胴太鼓と言われる大きめの和太鼓の演奏を教わっていた。長胴太鼓では、盆踊りの太鼓を基本とし、最近では太鼓だけでの演奏やパフォーマンスなど、新しいものを取り入れた事で注目されるようになり、叩き手もとても増えた。

しかし、お囃子はまたそれとは別のものだ。その歴史はとても古く、江戸時代ごろにはお祭りになくてはならない存在であったと言われている。お囃子は新しく変化させていくものではなく、昔から残る伝統を受け継いでいくものだ。今、その担い手不足に直面している。

稽古に参加してみると、驚きや不安の連続であった。

まず、笛を吹ける人は一人しかいない。そして、他の地域から招いていた。

さらに、太鼓を叩ける人は数人。お年寄りの方と他の地域の方だ。想像以上に、担い手がいない事を実感した。

稽古では、「てんやすけてん てれすぐす」などと、聞きなれない言葉やリズムが並ぶ。目で見て覚え、耳で聞いて覚え、口に出して覚え、体で覚えていくしかない。想像していたよりもはるかに難しい。ずっと畳に座っているので、慣れずに足も痺れる。本当に自分が叩けるようになるのか不安にもなった。

けれど、保存会の方々は熱心に優しく教えてくれた。そして、たくさん褒めてくれた。僕はよく見て真似て叩いてみたり、小さな事でも質問してみたり、何度も何度も叩いてみたりするうちに、次第に体で自然とお囃子のリズムが刻めるようになっていった。まだまだ完璧には程遠いけれど、だいぶ形にはなったと思う。

ふと、僕の知らないずっと昔の人たちが叩いていたお囃子を、今自分が叩いているという事に胸が熱くなった。

このお囃子を絶対に途絶えさせたくないと思った。
まだ見ぬ未来へと繋げたいと感じた。

僕たちの暮らす今の世の中は、便利なものや楽ができるもの、華やかで刺激的なものがたくさんある。

例えば、スマートフォン一つあればお店に行かなくても買い物ができ、映画館や舞台に行かなくても動画が見ることができる。

その一方で、人と人との繋がり、地域との繋がりは薄れて、伝統文化などの習得に時間がかかるもの、地味で古い物は注目される事がなく、ひっそりと姿を消していく。その存在すら知らない人もいるだろう。

伝統を受け継いでいく事は簡単ではないのだ。そして一度途絶えてしまうと再び蘇らせる事はとても難しいと言われている。

様々な年齢層の人たちが共通の目標に向かって取り組む事は、単純な事ではない。しかし何よりも、人と人、さらには地域との絆を深める事ができる。家庭や学校だけでは経験できない充実感や喜びを味わう事ができるものだと思う。

どうしたらこの先もこの伝統を守っていけるのだろうか。まずは自分が経験してみなければ始まらない。僕がこのお囃子を受け継ぐことで、どこかで若い人たちの目に留まり、お囃子というものを知ってもらえるかもしれない。やってみようと思う人が出て来てくれるのは、その先の事だと思う。

僕はこれからもずっとお囃子を続け、たくさんの人に出会いたい。人と人との繋がりこそが、この伝統を繋ぐ唯一の手段だと考える。

顔も名前も知らない昔の人たちが一生懸命に伝えてきたこのお囃子を、顔も名前も知らない未来の子供たちへ繋いでいけるように。